

第20回防災まちづくり大賞受賞団体の決定

地域防災室

平成28年3月4日（金）、都市センターホテル（東京都千代田区平河町2-4-1）において第20回防災まちづくり大賞表彰式が行われました。

防災まちづくり大賞は、平成7年に発生した阪神・淡路大震災を契機として、防災に関する優れた取組等を表彰し、広く全国に紹介することにより、地域における災害に強いまちづくりの一層の推進に資することを目的に、平成8年度から実施しており、今回で20回目を迎えました。

本年度は全国各地から94の事例が寄せられ、学識経験者等で構成される選定委員会において、他の地域の模範となる優れた取組19事例が選定されました（受賞事例の内訳は表のとおりです）。

災害による被害を軽減するためには、地域の防災力を強化すること、とりわけ地域の方々の「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い意識と連帯感に支えられた自主的な防災活動を推進していただくことが重要です。

平成25年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立し、住民、自主防災組織、消防団、地方公共団体、国等の多様な主体が、相互に連携協力して地域防災力を高めていくことの重要性が示されました。

受賞団体の皆様には、今回の受賞を契機として、より一層日頃からの活動を充実・発展させ、地域防災力の向上に引き続き御尽力いただけることを期待しています。

受賞事例一覧

応募総数		94
表彰名	総務大臣賞	2
	消防庁長官賞	7
	日本防火・防災協会会長賞	10
受賞事例総数		19



主催者挨拶をする土屋正忠総務副大臣



表彰状授与の様子

総務大臣賞受賞事例の紹介

団体名：モトスミ・オズ通り商店街振興組合

事例名：地域・被災地と連携した「安全・安心な街づくり」

所在地：神奈川県川崎市

概要：

【団体概要】

東急東横線・元住吉駅東口駅前に立地する商店街であり、会員数は120。

【背景】

東日本大震災発生をきっかけに、地域密着型の商店街として、地域の安全・安心に果たす役割を見つめ直し、また、震災の記憶を風化させないために、毎年度「安全・安心な街づくり」をテーマとして様々な事業を展開してきている。

【取組の内容】

主な取組として、地域住民が市民記者として参加し、地域の安全情報などをまとめた「安全BOOK」の発行や商店街各店が安全・安心な街づくりに出来ることを掲げる「一店一安心運動」の展開、商店街・地元小学校・慶應大学生が連携して、街なかで災害等に遭遇した時の対応方法を学ぶ「街なか安全教室」等を実施している。

【成果】

これらの取組によって、災害発生時に対応を図れる「地域コミュニティ」づくりに貢献するとともに、持続的に被災地復興支援を行っている。

団体名：かがわ自主ぼう連絡協議会

事例名：体得した防災ノウハウを広域展開し、地域防災力を高める

所在地：香川県高松市

概要：

【団体概要】

先進的な取組を行っている県内の自主防災組織約10団体が中心となり、各地域の自主防災組織や自治会を対象に、活動支援や啓発活動等を行っている。

【背景】

県内の自主防災組織の活性化を図るとともに、自主防災組織同士の連携と交流を深めることを目的に、県内自主防災組織が自主的に呼び掛けあって、平成19年3月7日に設立した。

【取組の内容】

平成19年3月に発足して以来、約9年の間に自主防災組織への支援において培ってきた様々な「防災ノウハウ」（自主防災会の設立、運営など）を、県内の自主防災組織や教育機関、企業、福祉団体などに訓練や研修を通じて「カタチ」で伝えてきた。また、各市町において、自主防災組織などを牽引できるチームを育成し、そのチームが各市町の核となれるよう、県内約300団体を回り「防災ノウハウ」の展開を図ってきた。

【成果】

この活動により、他エリアへの指導・支援ができる自主防災組織が県内に16団体誕生するまでに至っている。また、将来のために防災教育を展開した結果、幼保から大学まで29校に対し、76回にわたり「防災ノウハウ」を伝授してきている。

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部地域防災室 山野、荒木
TEL: 03-5253-7561